

大腸の内視鏡検査を受けられる方に

[検査内容]

大腸の病気の診断や治療の方針を決めるために、肛門から盲腸あるいは終末回腸まで内視鏡を挿入して観察をします。その際必要があれば病変の一部を採取して組織検査を行います。組織検査を受ける場合、抗凝固剤（血液をサラサラにするお薬）などのお薬を飲まれている方は一定期間の休止期間が必要です。別紙の説明書をご確認ください。

[方法]

腸の中をきれいにするために検査前日に食事の制限と下剤、当日に腸管洗浄剤を服用して頂きます。さらに検査の際、緊張を和らげ楽な検査が受けられる様にする為鎮痛剤と鎮静剤を注射します。ただし、全身麻酔の様に完全に眠った状態になることはありません。鎮静剤の効果は人によって異なりますが、帰宅後も眠気やふらふら感、判断力の低下が続くことがあります。鎮痛剤・鎮静剤を使用しないで検査を受けることは可能ですが、検査に苦痛を伴うことがあることを御了承ください。妊娠をしている方や妊娠の可能性のある方には薬は使用できません。これらの薬剤により、まれに発疹、嘔気、嘔吐などの副作用が起こることがあります。

[検査後のご注意]

- ・ 当日は車・バイク・自転車などの運転は絶対出来ません。
- ・ 生検を受けられた方は、検査当日は、飲酒・刺激物の摂取は出来ません。
- ・ 検査終了後は最低1時間半程度のお休み時間が必要ですので、帰宅が遅くなります。予定などをなるべく入れないようにしてください。

[検査手技に伴う偶発症]

内視鏡検査や生検により、稀に出血や腸管の損傷、穿孔などの重篤な偶発症を起こす事があります。さらに鎮痛剤・鎮静剤の投与により、注射部の炎症、皮下出血、筋障害、神経損傷、静脈炎、また血圧低下、ショック、呼吸抑制、呼吸停止などの合併症が起こることがあります。

2003年から2007年の全国集計（日本消化器内視鏡学会）では

・ 大腸内視鏡検査（治療を含まない）に伴う偶発症の発生頻度は0.012%と報告されています。ごく稀に死亡例の報告もあります。検査後に下血や強い腹痛などがあった場合には、当クリニックにご連絡下さい。

・ 鎮痛剤・鎮静剤に関連した合併症による死亡率は0.00003%(約330万人に1人)でした。また穿孔などの内視鏡検査の合併症が増加することも報告されています。

万が一、副作用、偶発症が起きた場合には最善の処置・治療を行います。

稀に、入院や緊急の処置・輸血・手術などが必要になることがあります。その際は当クリニックから入院治療のできる病院へ紹介します。なお、その際の診療も通常の保険診療にて行います。

以上、了解された方は同意書に自筆でご署名の上、受付にご提出下さい。ご承諾を得られない場合には、検査を中止します。また、同意書を提出された後でも、検査を中止する事が出来ますので、いつでもお申し出下さい。

以上

田坂記念クリニック

院長 加藤雅士

下部消化管内視鏡検査の同意書

田坂記念クリニック

院長 加藤 雅士 殿

ご確認事項 （該当部に☑をお願いします。）

- ・ 血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬）の服用は？
（ワーファリン・バイアスピリン・プラビックス・バファリン81・パナルジン・エパデールなどの薬）
 - ありません、
 - あります、（薬剤名 _____）
 - （ _____ ）前より中止しています。（処方医の先生の意見書を提出します。）
 - 中止していません。（組織検査をしない検査に同意します。）

- ・ 検査の際に鎮痛剤・鎮静剤を使うことに関して
 - 理解し、了承します。
 - 使用しない検査を希望します。

- ・ 内視鏡検査日には、自動車・バイク・自転車等の乗り物の運転は行いません。
 - 理解し、了承します。
 - 了承しません。

- ・ 組織検査を実施した場合、検査当日は、アルコール飲料、熱い食べ物、刺激の強い食べ物は、食べません。
 - 理解し、了承します。
 - 了承しません。（組織検査をしない検査に同意します。）

私は、下部消化管内視鏡検査を受けるにあたり、検査方法・内容の説明をよく理解しましたので、その実施を同意承諾いたしました。

年 月 日

ご住所

お電話番号

ご芳名

印

以上